

教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 平成24年1月25日(水)午後2時30分～午後4時15分
- 2 場 所 伊東市役所 4階 中会議室
- 3 出席者 1番 杉田 純子君 2番 佐藤 潤一君
3番 田中 智海君 4番 上村 昌延君
5番 佐々木 誠君
- 4 参 与 教育次長 鶴田 政利 参事兼幼児教育課長 大川 浩
教育総務課長 稲葉 繁太郎 学校教育課長 大川 幸男
生涯学習課長 萩原 博
- 5 書 記 教育総務課長補佐 村上 千明 主事 杉山 香織
- 6 会議の経過

委員長：ただ今から、伊東市教育委員会1月定例会を開会します。それでは、はじめに、教育長の報告をお願いします。

教育長：「1月教育委員会教育長報告事項資料」に基づき次の事項について報告がされた。

- 12月18日 伊東温泉紅白合戦2011
- 19日 第2回伊東市立小中学校施設管理のあり方検討会
- 26日 第12回静岡県市町対抗駅伝競走大会代表チーム解散式
- 1月 6日 消防出初式
- 8日 平成24年成人式
- 15日 第46回伊東オレンジビーチマラソン2012
- 17日 伊東市校長会
- 18日 伊東市立幼稚園長面接
- 19日 伊東市立幼稚園教頭面接
- 22日 2012年BS伊東地区新年賀詞交歓会
- 24日 対島中 伊東市教育委員会指定研究中間発表会

その他

- (1) 子どもをはぐくむ地域活動団体表彰

- ・ N P O法人アートの里伊豆高原絵本の家
- ・ サウンドアドベンチャー

委員長：ありがとうございました。ただ今の教育長報告について何か質問等はございますか。

委員長：サウンドアドベンチャーを7年間くらいやらせていただいております。以前「子どもの居場所づくり」というものがあり、今は「放課後子ども教室」という名称ですが、南小学校と八幡野小学校に、放課後に通いつめ、工作をはじめ、いろいろなことをしています。今はとても人数が多く、1回で80人くらいいますので、各年に分かれて教室をやっています。教室に、小学生の頃から来ていた子が、中学生になり、ボランティアとしてお手伝いしたいと言って、中学校の授業が終わってから、お姉さんとしてボランティアで参加している子もいます。長年続けることはとても大変ですが、子どもたちが喜んでいる教室で、先生たちが案内して来てくれたりして、少しずつ定着しつつあります。本当にありがとうございました。

委員長：よろしいでしょうか。その他何かございますか。

（意見なし）

委員長：委員からの報告がありましたらお願いします。

（報告なし）

委員長：それでは本日の議事に入ります。

委員長：議決事項です。

教議第12号「伊東市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について」と教議第13号「伊東市スポーツ推進委員規則の制定について」を議題いたします。説明をお願いします。

（萩原生涯学習課長から資料に沿って説明）

委員長：ありがとうございました。ただいまの説明につきまして御質問、意見等ございますか。

委員長：定数が20人となっていますが、今までの体育指導員の定数は何人ですか。

萩原生涯学習課長：定数の変更はありません。同じです。基本的には、体育指導委員の名称そのものがなくなり、スポーツ推進委員に変わったということです。今まで

の体育指導委員規則には、標題の表記がされていなかったもので、読まないと分からない部分がありました。それを表記させていただくということで、全部改正という形でやらせていただいております。

委員：名称が変わっただけで、やることは変わっていないのですか。

萩原生涯学習課長：スポーツ振興法の中で位置付けをしっかりとってきています。今までの体育指導委員規則に関しては、職務や、それぞれの研修というものはありませんでしたが、これからはスポーツ推進委員の職務を規定して、それに則った中で研修も行うように、スポーツ推進委員規則の中には記述させていただきました。

委員：委員には、それぞれのスポーツに精通した方が選出されるのですか。

萩原生涯学習課長：当然職務の中には技術的指導等ともありますから、基本的には、それぞれの分野に精通した人が選出されております。スポーツにはいろいろな分野がありますから、多くのジャンルの中から委員を選出しております。

委員：学校でも、先生がその部活やスポーツに精通しているということによって、格があがっていくということもあります。スポーツに関して詳しい方、優れた方に、ぜひなっただきたいと思っておりますので、これからも御尽力をお願いします。

委員：委員は伊東市民でなければならないという決まりはありますか。

萩原生涯学習課長：基本的には伊東市民の方をお願いしています。しかし規則の中にはうたっておりませんので、必ずしも伊東市民ということにはなりません。日常とまでいかななくても、かなり頻度は高いものですから、いつでも会場にいけるところということで、すべて市民の方を選出させていただいています。

委員：現在は伊東市に住んでいませんが、元伊東市民の方には、かなり高度な運動のレベルを持つ方もいらっしゃいます。そういう方も任命できるということで理解してよろしいですか。

萩原生涯学習課長：選出し、やってもらうことに関しては問題ないと思っております。ただし、交通費はつきませんので、ご了承していただければ問題ないと思っております。

委員：年齢的な上限はありますか。

萩原生涯学習課長：全くありません。熱海市と毎年1回お互いが持ち回りで研修会を開いておりますが、熱海市の体育指導委員の中には、かなり高齢の方がいらっしゃいます。

委員長：ありがとうございました。その他何かございますか。

(意見なし)

委員長：この件について確認します。教議第12号「伊東市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について」と教議第13号「伊東市スポーツ推進委員規則の制定について」は原案どおり承認してよろしいでしょうか。

(異議なし)

委員長：委員の皆様から承認が得られましたので、教議第12号及び教議第13号については原案どおり決定しました。

委員長：以上で教議事項は終了です。次はその他です。

「教育関係施設的环境放射線の測定について」を議題とします。説明をお願いします。

(鶴田教育次長から資料に沿って説明)

委員長：ありがとうございました。ただいまの説明につきまして御質問、意見等ございますか。

委員：実際のところ、この数値が果たして国が言う安全と世界基準と比較してどうなのかということも、できればお知らせいただきたいです。国の基準では安全というのが多いかと思いますが、ヨーロッパの基準では、これで安全なのかということについて、ぜひ細かく調べていただきたいと思います。

鶴田教育次長：国の基準では安全ですが、世界基準で言いますと、かなり厳しいところにあります。世界基準に合わせて取り組んでいくのかどうかという話も出てきますけれども、比較についてのデータは今後提示していきたいとは思っています。

委員：子どもたちの将来のことを考えると、国の基準よりも世界で言う安全という線に沿ったものの考え方をしていただきたいと思います。後になって、あの基準は日本の基準だったからという言い訳のないようにしていただきたいです。

委員：門野中は他の測定値とほとんど変わりませんが、かどの球場だけ桁がひとつ高いです。これは特異な数値だと思うのですが、考察はしていますか。

萩原生涯学習課長：かどの球場はマウンドで調査しております。なぜマウンドで数字が高くなるのか原因は分かりませんが、他はそれほど高くはありません。いろいろな場所で測る中で、マウンドだけが高いということです。今後この推移を見ていこうということで、その数値を出させていただいています。

委員：グラウンドですから、誰かが土を持ってくることもありえます。そのようなことが影響しているのではないかと考察しますが、その経緯については特に分からないということですか。

萩原生涯学習課長：グラウンドは22年度から人工芝等の張替えを行っております。今回の大震災以降、手をつけているものではありませんので、それについては問題ないと思っております。

委員：200メートルほどしか離れていないところで数値の違いがあるので、特異なことが、ここで起こったのではないかと感じました。原因が突き止められるのであれば、もう少し調べていただきたいと思います。

委員長：福島のほうでコンクリートの問題が出ました。先日静岡のほうに参りましたら、2、3件そういうことが出てきていると聞きましたが、伊東市では調査をしていますか。

鶴田教育次長：基本的に採石の問題だと思います。700件余り搬出をしているという情報は伺っておりますが、伊東市の業者で使用しているという情報は今のところ聞いてはおりません。また、特別調べるという手段をとることも考えておりませんでした。その必要性があれば調べてみたいと思います。

委員：特に学校の増改築の際などに、採石が入らないように、チェックだけはしっかりしていただきたいと思います。子どもたちにも関わることなので、よろしくお願い致します。

委員：どれくらいの期間、測定するつもりですか。1年で終わる、5年までやる、ほとぼりが冷めるまで続けるなど、予定はありますか。

鶴田教育次長：いつまでという終わりは決めておりません。全国的な流れもありますし、県内東海岸が多いというような話もありましたので、最低1年経つくらいまではやりたいという思いがございます。震災から1年か、測定を始めてから1年かというのはありますが、終わりは今のところ考えておりませんので、今後どの程度まで続けたらいいかというのも、定例会の中で委員にお諮りする形になるかと思っております。少なくとも今年度末までは必ず続けていくという形ではあります。

委員長：放射能は目に見えないものなので、みなさん不安になっています。できる限り調べて、データを、みなさんの目に通るように、新聞等いろいろなところに挙げて、長期間やっていただきたいと思います。

委員長：「教育関係施設の環境放射線の測定について」その他何かございますか。

（意見なし）

委員長：よろしいでしょうか。その他何かございますか。

大川学校教育課長：平成23年度伊東市教育研究奨励賞の授与式の開催及び教職員の研究発表を、2月17日の3時から市役所5階の中会議室で行いたいと思います。今年度の奨励賞の応募数が、小中学校12本、幼稚園で2本、計14本ありました。今週の金曜日に審査会を行い、代表者を1名決めます。その代表者の発表、それから静岡大学に研修で行っております職員の研究発表ということで開催させていただきますので、御都合がございましたら御出席いただきたいと思います。

委員長：ありがとうございました。ただいまの説明につきまして御質問、意見等ございますか。

委員長：どのような方が、どのような内容で表彰されるのか、ここで分かればありがたいです。

大川学校教育課長：発表者につきましては明後日の審査会で決定してから決まります。内容につきましては、この会が終わった後にお渡ししたいと思います。

委員長：それが分かると、子どもたちとどのような授業をしているのかなど想像もできますのでありがたいです。できればよろしく願います。

委員長：この件について、その他何かございますか。

（意見なし）

委員長：よろしいでしょうか。その他何かございますか。

大川学校教育課長：3学期ももうすぐ終わりますが、卒業式が3月17日の土曜日に予定されております。例年、教育委員には卒業式に出席していただいておりますので、どこに参加するか確認をお願いいたします。

教育長：今年度、各委員に担当の学校をお願いしました。それを踏まえた上で参加していただいたほうが各学校も親近感もありますし、問題行動についても相談しやすくなるかと思うのですが、いかがでしょうか。

（意義なし）

委員長：それぞれに担当の区の小中学校がありますが、普段から、委員は何回も担当の学校に足を運び、授業を見学するなど、いろいろなことをしています。それでは、

私が宇佐美中学校、委員が門野中学校、委員が南中学校、委員が対島中学校、教育長が北中学校とさせていただきます。

委員長：例年平日の卒業式が、今年土曜日に行われるのには理由があるのですか。

大川学校教育課長：昨年度、教育課程の編成上の理由から、日程を土曜日にしたいと各学校から要望がありました。

委員長：中学校が午前中ということは、小学校は午後ですか。

大川学校教育課長：はい。同じ日にやります。お知らせは各学校から連絡するように指導しております。

委員長：この件について、その他何かございますか。

(意見なし)

委員長：よろしいでしょうか。その他何かございますか。

萩原学校教育課長：4件ほどお礼と連絡をさせていただきたいと思います。はじめに1月8日に行われました平成24年成人式式典につきましては、教育委員のみなさまに、お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。式典には該当者673人のうち525人の新成人が出席しました。実行委員、職員、青少年育成団体等約90人、ボーイスカウト・ガールスカウト約70人、総勢160人ものスタッフ、ボランティアと連携を図る中で、大きな混乱や事故もなく、目標の、厳粛な中にも温かみのある式典を挙行することができました。今夜、最後の実行委員会を開催しますが、今回の反省を次にどうつなげていくかということに関しまして話し合いを持ちたいと思っております。当初、実行委員会を組織したばかりのときには、一言もしゃべれない、話もできないような新成人、実行委員がほとんどでしたが、5回の研修を踏まえまして、それぞれ責任感または自覚、さらには横とのつながり等が出てきました。1つ成長した彼らがどんな意見を出してくれるか非常に楽しみにしております。次に、1月15日に行われました健康保養地づくり実行委員会主催の第46回伊東オレンジビーチマラソンにつきましては、5キロの部に981人、10キロの部に931人、2キロの部にファミリーを含めて869人、合計で前回より163人多い2781人の申し込みがありました。当日は2616人が受付し、潮風を体感しながら自己の記録に挑んだところです。最終的には2501人のランナーの方が完走しております。今後におきましても、体育協会や協力団体と協力、連携を図る中で第4次総合計画の将来像にあります

「ずっと住みたい また来たい 健康保養都市 いたとう」の実現、さらには観光地伊東を全国に発信して交流人口の拡大を図ってもらいたいと思います。ちなみに、今回は市外の方が1463人、市内の方が1318人ということで、年々こちらも増えているような状況であります。次に善行賞について説明をいたします。子どもたちの善い行いをできるだけ多く認め、励まし、その行いの輪を広げて、人や社会のために進んで行動する意欲を高めることを趣旨に、毎年、伊東ライオンズクラブと共催で善行賞表彰を実施しております。今年は個人の部に20件51人、団体の部に5件の応募がありました。12月19日に審査を行ったところ、すべての個人、団体が表彰されることになりました。子どもたちの善行の輪がますます広がることを期待しているところです。表彰式を1月29日の日曜日午前10時からひぐらし会館ホールで行います。最後に伊東駅伝について説明いたします。2月5日に第40回伊東駅伝を開催いたします。現在7区間を走る一般高校男子の部が8チーム、5区間を走る一般高校女子の部が9チーム、クラブチームの部が18チーム、中学男子の部が8チーム、中学女子の部が5チーム、合計で昨年より2チーム多い48チームがエントリーしております。ぜひ開会式において、選手に励ましの言葉をかけていただければと思っております。

委員長：ありがとうございました。ただいまの説明につきまして御質問、意見等ございますか。

委員：オレンジビーチマラソンについてですが、スタートの時に怪我をして、結局出場できなかった女の子が1人いたように思います。詳しくは分かりませんが、全員がチップを持っていて、スタートラインを出ていくところからスタートし、ゴールしたときに、それぞれの個人の順位やタイムが分かると思いました。そうであれば、もう少しゆったりとした形でスタートできませんか。詰めてスタートするため、足が絡んで転んだのだらうと思います。まだ小学校2,3年の女の子だったように思います。せっかくこの日のために準備をしてきたのに走ることができないというのは、非常にかわいそうだと思います。団子状態になって事故になると大変なことになりますし、ぜひこのようなことのないように十分注意していただきたいと思います。

萩原生涯学習課長：2キロの部の大変混み合う中で、低学年の子が確かに転びました。その子に関しましては、スタッフの者がなだめながらどうするか伺うと、走りた

いということで、遅れはしたものの、完走いたしました。ご指摘のように、通過したときにタイムを測ることができればいいのですが、ゼッケンについている測定チップは、スタートと同時に全員一斉にタイムが始まります。あくまでもスタートラインはそれ以上前へ出ないというものだけのことであって、後ろの方も前の方も通過地点ではなく、ピストルと同時にタイムを動かします。そして、ゴールした時点で、チップで何分何秒と計測されるようになっております。前を走る人と後ろを走る人の差が、何十分も違うような本当に大きな大会になりますと、通過したときにタイムを測るやり方をしているところもあろうかと思いますが、地方の小さな大会では、チップはスタートと同時に全員一斉に始まってしまいますので、後ろのほうの方は確かに不利な状況になってしまいます。

委員：それではやはり団子状態になり、今後もけが人が出るかもしれませんね。

萩原生涯学習課長：議会でも、参加者が増えたときにどうするかというような、安心や安全について質問されたところですが、今はぎりぎりまでできていますが、定員枠は設けているわけです。片側の幅員しかないところでのスタートですので、非常に厳しい状況であることは承知しておりますが、今回警察と協議する中で、交通規制を5分間延ばさせていただきました。10キロの部は2つにブロックを分けてスタートしますが、今までその間が1分とあまりに短く、混みあったスタートになって非常に危険だということで、そこを5分間延長した経過はあります。

委員：子どもたちの部もできれば2つに分けていただきたいと思います。

萩原生涯学習課長：今後どのような形でやれるかということは、今までもずっと検討してきたところではありますけれども、今のこのコースから言うと、警察の許可が出ない限りは難しいと感じております。広々と4車線を全部貸し切ることができれば混み合うこともないわけですが、片側だけという状況では非常に厳しいと思います。今のようになら2回に分けても、狭いところですから、少ない人数でも、スタートはそれなりに混み合ってしまうと思いますが、少しでも回避できるのであれば検討したいと思います。

教育長：実際に運営する人たちにも意見を聞いてみないと、簡単にはいかないことかもしれませんが、小さい子たちがスタートする場合には、それほどタイムにこだわらなければ、やり方はいろいろあるかと思えます。止まっているところから一斉にスタートするのではなく、後ろから歩きながらスタートするやり方もあります。

今回も、大きなけがには結びつきませんでした。あの子にとっては、みんなの
見ている前で転んでしまい、非常にかわいそうな出来事です。そのようなことを
回避するための方法について検討するためにも、反省会では、今日出た意見を、
代表を通じて必ず出していくことが必要だと思えます。

委員長：おそらく市外、市内の両方の方に温泉のチケットが出るかと思いますが、温泉
が楽しみで来る市外の方もいらっしゃいます。5人くらいのグループで申し込ま
れた方々が、去年はみんな一緒だったらしいのですが、今年は一人ずつ別の温泉
だったそうです。「一緒に入れば良かったね」と言いながら、それぞれのところ
に行ったそうです。温泉のチケットというのはどのような形で配布されている
のかということをお教えください。

萩原生涯学習課長：誰が誰と入浴するか、我々には全く分かりませんので、市外の方は
旅館、ホテルの協力を頂く中で、各ホテルの協力店の受け入れ枚数をランダムに
配布しております。旅館組合等を間に入れて、旅館、ホテルともいろいろ協議さ
せていただく中で、別々のチケットを持ってきたときにも、大きなホテルにつ
きましては、ホテルの好意で受け入れてくれているということです。小さいところ
につきましては、何人までなら受け入れるということで話をしているということ
なのですが、集中してしまうと、逆にみなさまに迷惑がかかるということなので、
その場合には、会場に総合案内がありますので、そこでチケットを交換するこ
とはできます。しかし希望のチケットを渡してしまうと、駅前のホテルに集中し
てしまいますので、与えられた枚数の中で、空いているところで、できるだけ同
じところへ行けるような形で調整しております。直に行った方については、今日お
礼に行った中で一件だけお断りしたというところもありましたが、他のところは、
伊東にわざわざ来ていただいたということで、すべて受け入れ、別の温泉のチケ
ットについても受け入れさせてもらったということで話を伺っております。1件
だけ揉めたようですが、そのところがどのような状況になったのか、我々のと
ころには連絡は来ていません。できれば同じ仲間が同じところへ入れるような受
付方法ができればと思うところです。また、23年度はまだ出ていませんが、2
2年度は240人前後の市外の方が伊東に泊まるということで来ております。そ
の方たちの中には、もらったチケットではなく、泊まったホテルへ行く方もいる
かと思えます。まだ確認はしていませんが、多いところでは100人以上の方が
入浴するという話も伺っております。

委員長：ありがとうございました。少しでも伊東が活性化できるものでもありますので、よろしくをお願いします。

委員長：成人式について、無事に終わって良かったのですが、外のところは問題があったように思います。成人者のお母様2、3人とお話ししたのですが、式が終わって外に出てみると、違う学校の子どもたちが後輩として「どうぞどうぞ」というようなことがあったようです。親として「やめなさい」とは言ったものの、空き瓶を片づけることだけが精いっぱいだったそうです。そのくらいモラルがあってもいいはずなのに、実に残念だと思います。これから、そのところはどうか、どうふうにしていくのか、そこまで何かをしなくではいけないのか、考えていかなければならないと思います。

萩原生涯学習課長：指摘されたとおり、式が終わった後、外で後輩が酒を持って待っていて、大騒ぎしておりました。当初の入場に関しては、呼吸の検査をしているわけではないものですから、本人が飲んでいないと言えは入れています。基本的には、酒を飲んでいないということ、持ち込みも当然だめだということで新成人には伝えております。式が終わった後の部分につきましては、酒が入りますので、ボランティアの人たちにそこへ行ってやめさせるということは非常に難しいと思います。黙って見ているわけではないわけですが、大騒ぎしているところへ何人かが行ったら、逆にまた煽ってしまうのかとも思います。我々のほうも、始まる前は、待機して酒のチェック等して、入場の制限そのものについてはしっかりやっているところですが、終わった後の部分で、外であれだけ大騒ぎされてしまうと、警察でないといけないかと思えます。見張りにしても、一人や二人では危険だから対応するなと申し合わせていることです。あの調子だと、けんかになるなど、またトラブルになってしまうのではないかという思いはしております。

委員長：せっかくお家の方も来てくださっているのに残念に思いますし、これが沖縄と同じように慣例化することが問題です。そのような騒ぎを、ボーイスカウト・ガールスカウトの子どもたちに見せることにも問題があると思います。この子たちが一生懸命応援してくれて、実行委員の方や160人のスタッフの方たちが働いてくださって、中では良い式典ができたのに、外ではこういうことが行われることについて、慣例化にならないように、もう一度市民全員で考えなくてはならないと思いました。

萩原生涯学習課長：まさしくそのとおりだと感じております。終わりよければすべて良しではありませんけれども、せっかくいい形で式典が流れたのに残念です。ほとんどの職員が、写真撮影がすべて終わるまでは、中でそれぞれの役割の仕事をしているところですので、外に出られるだけの余裕がないという状況がありますが、そうは言っても、騒ぎを許していいという話にはならないところです。新成人、スタッフ、さらにはボランティアの人たちだけの問題ではないものですから、どのような形で抑えることができるかどうか検討はしていきたいと思います。

委員：振袖を着た女の子たちが3，4人集まって一升瓶の回し飲みをやっていました。男の子が酒を飲んでいるのがかわいく見えてくるような、今の肉食系、草食系のくくりで言っても、残念な光景でした。常識を逸脱しているという部分だと思うので、それは規制をかけてもいいのではないかという気はいたしますが、成人ですので、法的に難しいことです。そこまでボランティアの方に求めて、何かあったら大変ですし、良識に委ねるしかないと思います。

委員長：この件について、その他何かございますか。

（意見なし）

委員長：よろしいでしょうか。その他何かございますか。

大川学校教育課長：インフルエンザのことについて状況をお知らせしたいと思います。

1月16日に西小で急増し、学級閉鎖が始まりました。今日現在で学級閉鎖は中学校では、南中1年生が全7クラスになってしまいました。それから2年生が2クラス、北中で3年生が1クラス、流行っていた西小では、現在は、学級閉鎖はなく、罹患率も8パーセントになりました。小学校で閉鎖しているところが、大池小と八幡野小と旭小で1クラスずつ、池小で3クラスということで閉鎖報告があります。1月16日から調査しましたが、今現在のインフルエンザにかかった子どもの累計は404人ということになっております。寒い時期が続きますので心配ですが、3年生は受験も控えています。うがい・手洗い、それから普段の生活や食事のことは指導しております。

委員長：ありがとうございました。ただいまの説明につきまして御質問、意見等ございますか。

（意見なし）

委員長：よろしいでしょうか。その他何かございますか。

委員：元旦に南中の器物破損の被害報告があったと思いますが。その後の経過はどうなっていますか。

大川学校教育課長：1月1日の3時くらいに連絡がありました。地域の方がお正月に運動場で運動しようとして来たときに発見したということで、警察に検証していただきました。いつどのような形でなったのかということもまだ分かっておりません。被害届を出しております。

委員長：よろしいでしょうか。その他何かございますか。

大川学校教育課長：平成20年度から中学校弁当の提供事業ということで、中学校に弁当を配送しております。4年間が終わるものですから、ここで少しまた検討したいという意見がありまして、教育委員の意見も聞いたらどうかという指摘を受けました。御意見をいただき、今後の対応、これからの進め方について参考にさせていただきたいと思います。今現在どのくらいの人数が利用しているかについて説明いたします。お弁当とパンがありますが、20年度は全体で7パーセントくらいの利用率になっておりました。21年度が5.8パーセント、22年度が5.5パーセントで、今年度5.2パーセントと、少しずつ減ってきています。現在、お弁当は4校あわせて一日平均7.3人、パンのほうは一日平均31.3人という人数です。このままで良いのか、または配達の仕事や、引き渡しの仕方など、また少し検討したほうが良いのではないかといいところがあったものですから、御質問やアドバイスがありましたら教えていただきたいと思います。

委員長：ありがとうございました。ただいまの説明につきまして御質問、意見等ございますか。

委員：パーセント程度の話では分かりません。例えばお弁当を好む子だっているでしょうし、パンにされたら嫌だという子もいるかと思えます。子どもたちに具体的に話を聞いてみないことには分かりません。

委員：数字を教えてくださいましたけど、この数字をどうしたいのですか。上げたいのか、下げたいのか、内容を変えたいのか、どのような意見を我々に求めているか分からないと意見の出しようがありません。普通の飲食店から言えば、7.7人では商売としてやっていけないと思います。それなら全部パンに変えるほうがいいのか、学校側が、子どもたち側が、何を求めているのかを示していただきたいと思います。

鶴田教育次長：弁当の注文を始めてから4年になりまして、来年度は5年目になりますが、だんだん注文率が下がってきて、業者もなかなか大変な状況にあります。来年度も委託費を計上させていただいて、1人でも困っている生徒がいれば、その対応を図っていこうという形で、事業を進めております。教育委員会内部で、24年度は、お弁当の事業をどういう形で進めていこうかという論議を始めておりますが、当然この弁当の注文方式は、給食に代わるわけではありませんので、1人でも注文する人がいる限り、市で担っていくというのも1つの考え方です。また、検討委員会の中で意見が出ましたが、改めて業者を募集するというのも1つの考え方です。そうしますと当然メニューが変わりますので、困っている子どもではなく、食べたい子どもが注文するのではないかという意見もありました。4月からは教育総務課の中に政策をする係ができますので、そこで今後の給食についてプランニングを立てていくという話も可能かとは思いますが、それと並行してお弁当事業もどうするのかというの、委員さんの率直な御意見をいただきたいと思います。全体的に注文率が下がっていく中で、人数が少ないのならやめる方向でいくのか、1人でもいれば継続して給食ができるまで市で担っていくかなど、大まかな考え方でも御意見を伺わせていただければと思います。率をあげたいのかというような具体的な話ではなく、方向性の話だけ、委員会としてはどういう考えを持っているのかという話をお伺いできればと思います。

委員：お弁当を作れる家ばかりではないということ考えたときに、助かっているという家庭、そういう個々をもう少しよく見ていただきたいです。必要としているという家庭がどれだけあるかという部分を先に調査してもらいたいです。いろいろな家庭状況がありますし、毎日毎日作るのは大変だという本音はあるかと思えます。そういう部分で言えば、廃止するというのは、子どもたちや家庭にとって死活問題になるのではないかと感じております。私にも現役の中学生の子どもがおりますが、何度か助かったことがあります。パンだけにするとかそういうのは別にして、やめるという方向は、必要があるかどうかというニーズの問題です。長期で頻度の高い子がいるはずですので、どれくらいいるかというのを見ていただきたいです。学校で弁当を買えるというのは非常にありがたいということは現実としてありますし、当日に申込みできるというのもありがたいことだと思います。子どもたちの中に必要な子がいるということは、否定できません。

委員長：利用率が下がっている理由についてですが、それだけ他の家でお弁当を作って

いて、そちらが充実してきたから下がってきたということですか。

大川学校教育課長：例えば家の弁当がいいという生徒もいるでしょうし、値段のこともあるので、他で買ってきているという生徒もいるかと思いますが、その分析については細かな調査はしていません。下がった理由もいろいろ考えられますが、その中でどういうふうに変えていけばいいのか、どのように存続させていけばいいのかということを今検討しているところです。ニーズについてはもう少し調査しなければいけないと思います。

委員長：20年度、21年度もアンケートを取って業者を選び、何社かが候補にあがって、そこからどのように決めて、ということは何回もここで練っていたと思いますが、そのときの報告と私たちの考えは、1人でも2人でも必要な子どもがいたらやろうという意見でした。利用率が下がってどうしようかということを変更して考えたときに、委員の意見、下がったのは家庭のお弁当が充実したのか、ということも調べて、検討していただいて、結果をここでお知らせしていただきたいと思います。食のことですから、やはりしっかりやらなくてはいけないと思います。もう1度考えていただきたいというのが私たちの意見です。

鶴田教育次長：内部の検討委員会の中でも、お弁当の注文システムをどうしていこうかという打ち合わせを進めるわけですが、基本的にはやるという委員の意見として、やる方向については、また内部で検討して報告するような形で、御相談したいと思います。利用率の調査は非常に難しいことで、意思の調査というのはできるのですが、コンビニのお弁当を詰め替えて持ってくるのかも現実としてはあるようで、詰め替えているというのはお弁当を作っているという意思表示を外に見せたいからだと思います。調査をして表に出るかどうかということ、出てこないと思います。学校で把握している部分も多少ございますけれども、太りすぎている子は少しご飯を抑えたり、家から注文弁当のお金を貰ってきてコンビニで安いほうを買ってそれで済ますことなど、こうした例は推測の域はでないですけれども、現実にはそれがあのかどうかというのは、調査ではおそらく挙がってこないと思います。インターネットなど見ますと、いろいろそのような問題もあるかと思いますが、ニーズがあることは委員がおっしゃるとおりです。間違いなく固定化されている子どもはいるかと思いますが、そういった子どものために、引き続き、予算をお願いして、今後も続けていこうという形で検討会は開いておりますが、

やはりこのままですと、業者も今の委託の費用で足りるかどうかがというのは難しい話になると思います。全体をパンに変えるという話になりますと、それは今お弁当を作っている業者をやめてしまうということになりますし、また新しい参入業者を募集するかという話も考えなくてはならない時期になってきます。やはり長く同じような事業をやって、結果や先が見えないようなことも問題かと思いますので、検討会のような会議をする形で、御提案、御相談をしていくということで、ご了解いただければと思います。

教育長：パンなら売れるという話ですけれども、導入するときに栄養士の意見を入れて、中学生の体格あるいは運動に合ったカロリー計算を元にした上で、この程度は必要だろうということでパンだけではなく、弁当ということを考えました。ですから、子どもの嗜好に合わせるだけでいいのかという問題もあるだろうと思います。また、アンケートをすると、必要だという意見が出てきますが、実際に売れるかというところ、そこにはまた差が出てくるというような状況ですので、分析は非常に難しいところです。いずれにしても、弁当を持ってくることができないようなケースが生じた場合の緊急対策であるというところからスタートしています。爆発的に増えるということは最初からないだろうという考え方だったように思います。できるだけ買いやすくはしていきたいですが、増やすことが是であるか非であるかと言ったときには、別の問題であろうということはスタートの時から論議されてきたことだと自分は記憶しています。

委員：社員の弁当をとっていますが、味に慣れてしまうので、だんだん残す率が高くなってきます。業者を変えると、味が変わるので残さなくなります。それも食べ慣れてくるとやはり残す率が高くなるという繰り返しです。利用率が下がっているのは単純に理解できます。

委員長：この中で最初どういうふうになら、どう維持し、予算化するのか、総務の政策係のほうでもう一度検討していただくのか、いろいろなことをこれから探りながら考えていただきたいと思います。前に門野中学校に給食を食べに行ったときも、お弁当の子がいました。また、給食の残飯のあまりの量の多さに私たちもとても驚きました。何が一番いいのか、給食を出してもらった方がいいのか、いろいろなことがこれから検討されることだと思いますので、改めて、いろいろな資料と結果を、報告していただければありがたいと思います。

委員長：この件について、その他何かございますか。

（意見なし）

委員長：よろしいでしょうか。その他何かございますか。

大川学校教育課長：県費負担教職員の23年度末の内申について臨時会を開いていただきたいと思いますので、日程を確認させていただきたいと思います。2月29日の水曜日の午後2時はいかがですか。

（意義なし）

大川学校教育課長：それでは追って通知を出させていただきます。

委員長：その他、何かございますか。

（意見なし）

意見も無いようですので、本日の審議事項は、以上を持ちまして終了します。

委員長：今後の日程について確認します。

2月定例会につきましては、2月20日（月）午後2時30分から、4階中会議室

3月定例会につきましては、3月19日（月）午後2時30分から、4階中会議室

委員長：ご苦労さまでした。以上で伊東市教育委員会1月定例会を終了します。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

委員長 杉田純子

委員 上村昌延

書記 杉山香織